

外国人・移民に向けた教育政策を制度から問いなおす

人間科学研究科 教育環境学講座

教授 園山 大祐



Researchmap <https://researchmap.jp/read0059967>

研究の概要

国内外の教育政策や教育制度に関心を持っています。具体的には、日本社会の国際化は教育界においても喫緊の課題となり、戦後の教育体制の見直しを迫られています。

たとえば、日本の外国人の教育保障は海外と比べたときに、どのような異同点、いつから、どのようにつくられたのでしょうか。教育機会以外にも、無償制度の範囲など、どこまで保障されているのか、戦後の政策史と制度改革を検討してきました。特に欧州諸国との比較から、日本の教育政策や教育制度の課題を明らかにしてきました。

外国人だけではなく、国籍に関係なく異文化に育つ子どもにとって開かれた教育政策・制度とは何か。こうした問題により早くから取り組んでいる先進地域との比較から研究に取り組んできました。国内の国際化として外国人、外国に出自がある人、国際結婚、帰国生、無国籍、など多様な背景を持った児童生徒に応じた多様な学びを保障するための政策や制度について研究をしています。

なかでも、多民族国家として社会統合に腐心するフランスの教育政策や、EU各国との比較教育制度研究に取り組んでいます。いかなる社会的なマイノリティにも開かれた学校教育とは何か、公教育制度のあり方を考究しています。

研究の背景と結果

日本における外国人への教育政策は現在、議論の中心にあります。日本人研究者によって行われたいくつかの歴史のおよび社会学的研究は、すでに日本における教育の不平等な状況を明らかにしており、外国人により良い教育機会を保障するための積極的差別是正政策を提唱しています。

残念ながら、日本国憲法や教育基本法は外国籍に対して差別的で、地方自治体、外国人受け入れに尽力する校長や教師、そして保護者やその他のボランティア団体の支援によって、外国籍の生徒の包摂に向けた努力が行われています。

しかし、これらの取り組みは、すべての人に平等な教育へのアクセスや学校制度内での公平性を保障するものではありません。外国人の増加と文化的多様性にもかかわらず、日本は教育制度における同化主義的傾向を維持しています。過去に同じ傾向がすでにアイヌ語・文化の消失に寄与したことを思い出す必要があります。

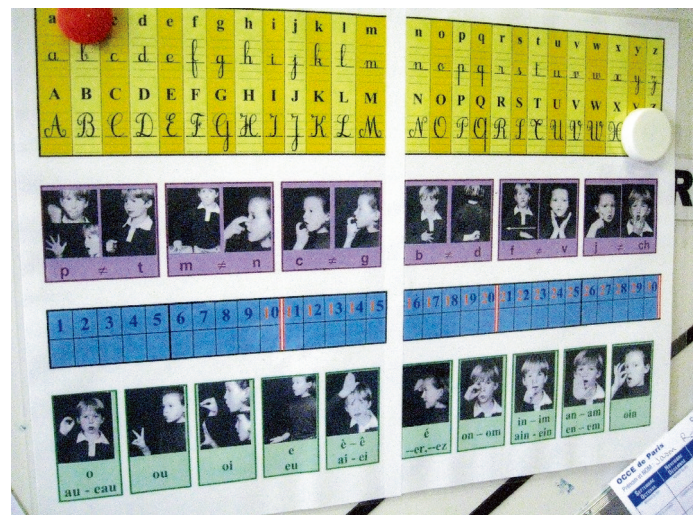
外国人からの要望のひとつは、公教育において文化と言語の多様性を考慮することです。言語と文化はアイデンティティを構成する要素であるため、民主社会において、公教育がマイノリティに属する人々の出身（あるいは継承された）言語と文化を伝える役割を果たすことも重要です。公教育の変化を待つ間、同じ地域の民族学校と日本の学校との交流を促進することは、文化的、言語的、宗教的多様性の理解を深めるために有益であると考えられます。欧州における異文化間教育はその証左となります。

研究の意義と将来展望

本研究は、学校教育をめぐる差別、障害、格差の実態やその撤廃、縮小、是正に向けた取り組みについて、当事者性を基調とした、現場で得たデータを駆使して、教育の包摂や普遍化へ向けた実態に迫るところに特徴があります。国内外の教育政策や制度改革において、グローバルに考えながら、ローカルな課題に答えようとするものです。マイノリティ文化への理解と共に、共生社会の実現の礎となる学校教育の政策や制度の実現を目指しましょう。



EUのプログラムを通じた国際交流（フランスの中学校）



障がい児教育：手話の教材（フランス）

特許	
論文	園山大祐編 (2025) 『移民の教育政策を制度から問いなおす』 勁草書房
	園山大祐編 (2024) 『海外の教育のしくみをのぞいてみよう』 明石書店
	園山大祐編 (2024) 『若者たちが学び育つ場所』 ナカニシヤ出版
	園山大祐監 (2022) 『教師の社会学』 勁草書房
	園山大祐編 (2021) 『学校から離れる若者たち』 ナカニシヤ出版
参考URL	https://educational-policy.hus.osaka-u.ac.jp/
キーワード	移民教育、比較国際教育、異文化間教育、教育社会学、フランス・EU